

MEIKAI UNIVERSITY

URAYASU CAMPUS

ALUMNI ASSOCIATION

vol.22
Dec.2016

明海大学
浦安キャンパス
同窓会報

SPECIAL ISSUE

明海大学体育会ヨット部探訪

—全日本大学ヨット選手権大会で見た“チーム”で戦う力—

2016夢プロジェクト実施レポート

吹奏楽の旅

～音楽は世界をつなぐ 未来へ1・2・JUMP!～

明海大学浦安キャンパス同窓会の
LINE@公式アカウントが開設!!

今なら登録して学籍番号をメッセージで送れば
「iPad」や「ディズニー1DAYパス」などが**高確率**で当たる!

キャンペーン詳細は冊子裏面をご確認ください⇒



同窓会Facebookページ
<https://www.facebook.com/Meikai.dosokai>



同窓会LINE@アカウント
https://page.line.me/meikai_dosokai





CONTENTS 01 SPECIAL ISSUE

明海大学体育会ヨット部探訪

— 全日本大学ヨット選手権大会で見た“チーム”で戦う力 —



2016年11月2日から6日にかけて、愛知県蒲郡市の海陽ヨットハーバーにおいて、全国の23大学が集結し、第81回全日本学生ヨット選手権大会が開催された。今年、関東インカレで総合3位となり、470級では個人戦女子ペア最高位・女子インカレ3位の林優季選手（経済学科4年）、スナイブ級で関東個人戦準優勝の杉浦良介選手（経済学科4年）や全日本個人戦4位入賞の柴沼拓也選手（経済学科4年）など、3年前の西宮全日本でスナイブ級初優勝（総合では準優勝）した時代に匹敵する戦力を擁する明海大ヨット部は、十分に総合優勝が狙えるチームとして大会に臨んだ。

鮮烈なデビューを飾ったが…

明海大学ヨット部の創部は1989年であり、浦安キャンパスが設置された翌年にあたる。海に近い浦安キャンパスにはヨットのイメージが相応しいということで、海のF1と呼ばれるアメリカズカップ艇のスターズアンドストライプ号を導入し、海外からコーチを招いてヨット部がスタートしたのであった。ヨット関係者の耳目を一手に集めた、誠にセンセーショナルなデビューであった。しかし、その後、部員の減少など紆余曲折を経ることになる。

國府田監督登場

この状況を打破すべく、2006年に招聘されたのが國府田由隆監督である。國府田監督は、独自の取り組みでいくつかの高校でヨット部を創設し、短期間のうちに全国レベルに到達させるなど、ヨットマンの育成にかけては素晴らしい実績をもっていた。

一名を追うより実を大切に作る堅実な手法は、明海大学でも徐々に効果を上げ、ついに2013年第78回全日本ヨット



選手権大会において、スナイプ級1位・470級4位で総合2位を獲得するまでに至ったのである。

全日本大学ヨット選手権は、470級とスナイプ級の2クラスで競われる。ド



ちらもほぼ同じ大きさだが、470級は大きなメインセイルと前方にあるジブセイルの他に、追い風の時に使用するパラシュートのような3枚目の帆（スピナーカー）を装備し、スピード勝負が得意。対するスナイプ級は、船体にチャイムと呼ばれる角度が付いていて、スピードというよりもコース取りが決め手となる。

初日から大きなダメージ

この選手権大会は11レースが行われる予定になっており、各大学3艇が出場するチームレース。スコアは全て累積し、登録メンバーであればレースごとに乗員の交代は自由といったルールで行われる。つまり、ゴルフのように、連日の試合結果が積み重なって総合成績になるのである。一発大逆転はほとんど不可能で、安定した総合的な実力が試される試合となっている。

そして、レース初日、いきなり想定を超える事態が発生した。強風である。沈、



リタイア、故障艇が続出し、第2レースが終わったところでついにA旗の上にAP旗が掲揚された。つまり「スタートしていないレースを延期する。本日はこれ以上レースを行わない」という意味である。この時点で470級は何とか5位につけていた。しかし、帆を破ってしまうほどの強風は、特にスナイプ級に災いした。ほぼ全艇でマスト折れや曲がりが発生し、明海大チームにもゴールできなかったり、リタイアする艇が出てしまい、ペナルティを科せられた結果、スナイプ級は12位と大きく出遅れてしまったのである。

諦めない戦いを続けて

翌2日目、前日ほどではないが風は強め。スナイプ級では第4レース、第5レース、470級でも第5レース、第6レースとゼネラルリコール（フライング艇が多すぎて識別できず再スタートとなる）が続く落着かない展開。そんな中、この日、明海大は470級6位、そしてスナイプ級では9位と順位を上げた。

3日目、470級は第7レース、第8レースで、スナイプ級では第9レースでゼネラルリコール。依然として強風がおさまらなかつたため、この日はそのままレース中止に。明海大は470級7位、スナイプ級8位の結果となった。初日に出遅れたが、諦めることなく粘り強く戦い抜き、総合6位

入賞が狙える位置で最終日に臨むことになった。

負ける悔しさより勝つ喜びを！

そして最終日、最初のレースは風の方が急変してノーレースとなり、パイの位置を変えて第10レースがスタート。

この日の戦略は、前日までの順位を考えて、マークすべきチームを徹底的におさえること。勝ちを焦るより負けないレースをする。そして11レースを終えた結果、470級は6位、スナイプ級は8位だったものの、総合得点で堂々の6位入賞を果たしたのであった。

総合優勝こそ逃したものの、チーム一丸となって粘り強く戦うことで得られた大きな成果である。「負ける悔しさより勝つ喜びを！」この國府田イズムをまさに体現する一戦となった。





主将
太田 貴弘
経済学科4年



副主将/スナイプリーダー
柴沼 拓也
経済学科4年



女子リーダー
木村 沙耶佳
経済学科4年



470リーダー
林 優季
経済学科4年

CONTENTS 01-1

DISCUSSION

みんなヨットに夢中です

大会終了後、チームを支える幹部選手4人に集まっていたいただき、ヨットとのかかわりやチームに対する思い、そして監督の人柄などを語っていただいた。



—みなさんヨットとの出会いは？

太田貴弘(経済学科4年)「以下、太田」

両親が海好きで、小学生の頃からサーフィンなどマリンスポーツに親しんでいました。中学2年の夏休みにヨット体験ができる教室があつて、それでヨットが好きになりました。そして、高校では本格的にヨットを学びたいと思い、ヨット部のある都立高校を探したら、なんと伊豆大島にある全寮制の大島海洋国際高校しかなかった。もちろん迷わず入学しました。

柴沼拓也(経済学科4年)「以下、柴沼」

私は中学までは野球部でした。高校入学をきっかけに野球とは違うスポーツを行ってみたいと思っていた時、兄の知

り合いだったヨット部の顧問から、「ヨットをやってみないか」と声をかけられました。その結果、インターハイにも出場でき、充実した高校生活が送れました。

木村沙耶佳(経済学科4年)「以下、木村」 中学時代は陸上部に所属していました。高校のとき学校でヨットの試乗会があり、それに参加してヨットのとりこになりました。高校は國府田由隆監督がヨット部を創部された千葉県立磯辺高校です。それからは国体を目指してヨット漬けの毎日でした。

林優季(経済学科4年)「以下、林」 中学3年生の頃、高校のヨット部で活躍していたいところにあこがれていました。そこでヨット部のある地元の高校に進学しました。地元で開催されたインターハイで団体優勝するなど、結果がついてくると、どんどん楽しくなってきました。

—國府田監督はどんな方ですか？
太田 普段はめつたに人を褒めないです。でも、いい結果を出したときなど、見るべきところはきちんと見てくれていて、とても信頼できる監督です。だから、認めてもらいたいという気持ちでモチベーションが維持できます。

柴沼 チームとして誰をレースに出すか、いつも監督と話し合っていて決めるのですが、

監督はひとりずつよく見てくださっているとあります。努力を認めてくれる優しさがあります。

木村 とにかく面倒見がいいと思います。大会のときだけでなく、普段の練習でも毎日欠かさず指導してくださいますし、練習だけでなく、艇の修理まで私たちと一緒にやってくくださるんです。

林 練習だけでなく選手の体調まで、実によく見てくださっています。私たちの部はマネージャーとかコーチなど特にはいませんから、すべてを監督がカバーしてくださっている感じです。

—今回のレースについてひとこと

柴沼 僕はスナイプ級なんですけど、2日目の第3レースで5位、続く第4レースではトップ独走で1位フィニッシュできたことが嬉しかったですね。これでスナイプ級の反撃に弾みがつきました。

太田 総合優勝を目指すという意気込みで臨んだのですが、初日の強風でスナイプ級にトラブルが続出して、めげそうになりました。ペナルティが70点も付いて、どん底の気分でした。しかし、ここは主将として皆の気分を盛り上げ、なんとか上位に食い込もうと、雰囲気づくりに気を遣いました。その結果、総合6位に入賞できたことは、主将として大きな喜びです。

CONTENTS 01-2

POINT OF VIEW

異色の経歴がもたらす
人間育成の視点

明海大学ヨット部監督 國府田由隆



創設した千葉県立磯辺高校ヨット部を国体優勝させ、千葉県立検見川高校でも創部2年で全国総体3位に導くなど、その手腕からユースワールド監督なども歴任。明海大学ヨット部監督、國府田由隆氏の《視点》とは。

監督は長距離界で活躍した陸上選手であり、選手引退後もコーチや審判員として活動していたが、「選手と一緒に走れなくなったなら陸上指導は務まらない」と、29歳で未経験のヨット指導への転向を決意。

言わば、部外者としてヨット界に入ったが、その経験も糧になった。トップアスリートとしての実体験があるだけに、例えゼロからのスタートであれ「可能性を信じる気持ち」は揺るがなかった。「意識さえ高く続けば、どんな選手も世界を目指すことはできる」と監督は断言する。

勝利を掴み、成果を得られれば、それは自信につながる。だからこそ社会に巣立つ学生たちには、勝つことには大きな意義があると伝える。「私はヨット選手を育てているだけじゃない。人を育てているんだよ。弱点を克服し自信につなげる。この経験は人生のどんな場面でも役立つはず。」その経歴と言葉は、無から有を生む明海大学のフロンティアスピリットとシンクロする。

CONTENTS 02

2016夢プロジェクト実施レポート

吹奏楽の旅

～音楽は世界をツナグ 未来へ1・2・JUMP!～

た。準備合宿では、曲目や技術についてだけでなく、企画の意義についても確認し合

て。そして、2016年11月、台湾の東呉大
学へ。最初は互いの活動内容や大学紹介な
どを行い、短い時間でもより交流を深めよ
うと、中国語で自己紹介を行うなど工夫も
凝らした。その後、実際の演奏練習を経て
いよいよ本番へ。最初に東呉大学吹奏楽部
が演奏を披露。曲目は日本人にも馴染みの
あるメジャーな
楽曲群、そし
て明海大学学
歌『よろこび』。
「学歌を演奏し
てくださって、
東呉大学の皆
さんと一つにな
れたような気
持ちになった」
とメンバーは振



昨年
の夢プロ
ジェクト
審査会
におい
て、『海
外の大
学への
演奏旅
行を実
施し、異
文化交
流を図
りたい』
という、
吹奏楽
部メン
バーに
よる本
企画が
採用と
なった。
創部以
来、初
の海外
遠征に
備え、企
画採用
から丸
1年か
け念入
りな準
備が重
ねられ

り返る。明海大
学吹奏楽部メン
バーも、台湾で
よく知られた日
本のアニメや
ゲーム音楽など
のメドレー、そ
して東呉大学の
学歌を演奏。聴
衆の盛り上がり
は素晴らしく、メンバー達も「会場の雰囲気
のおかげで自分たちも楽しんで演奏する
ことができました」と口をそろえる。最後
は合同でジブリメドレーを演奏するなど、
会は大成功のうち幕を閉じた。



メン
バーは
今回の
夢プロ
ジェクト
を通し
てどの
ような
思いを抱
いたの
だろう
か。「多
くの方
々に支
えられ
て、夢
だった
海外
での演
奏会を
実現で
きました
。普通
では体
験でき
ないよ
うな、
素晴
らしい
機会へ
のきつ
かけを
与えて
くださ
り、メ
ンバー
一同感
謝して
います。」
今回、
メン
バーは
ただ海
外での
演奏を
したと
いうだ
けでは
なく、
それを
自分た
ちの力
で考え
交渉し
、台湾
の地ま
でたど
り着き
、成功
させて
友を得
るとい
う、実
に得難
い体験
をする
ことが
できた
。この
経験は
彼らに
とって
生涯忘
れられ
ない出
来事と
なるだ
ろう。
そして
、この
夢の延
長線上
にはさ
らに、
この経
験をも
とにオ
リンピ
ックに
吹奏楽
で何か
関わり
たい、
という
目標ま
である
のだと
いう。
「夢プロ
ジェクト
」の名
の通り
、学生
だけ
では実
現が困
難と思
われ、
ともす
れば諦
めてし
まうよ
うな『
夢』を
同窓会
はこれ
からも
支え、
応援し
ていく。

CONTENTS 03

CASE STUDY

ビジネス交流会 コラボレーション事例

WEB デザイン・写真

×

印刷業界

複数案件での交流事例



約3万人を超える明海大学OB・OGの
輪を有効活用し、ビジネスを生み出そうと
いう「ビジネス交流会」。その輪の中から、
今回また新たな事例が誕生した。

We
bデザ
インを
手掛け
るユニ
ンター
ネット
ラボ株
式会社
代表取締役・嶋田きよ
の氏と、印刷業務全般を行なう株式会社千
葉印刷の後藤学氏。世代も学科も違う二人
は、2015年のビジネス交流会で初めて
出会った。その場は名刺交換程度で終わっ
たが、1年後に嶋田氏が印刷物を依頼する
こととなる。「後藤さんにはそれまで何度
か見積もりをお願いしていましたが、よう
やく仕事につながりました。お願いしたの
はあるイベントで使用するアンケートシー
トでしたが、複写仕様だったので分からな
いことも多く、プロである後藤さんに頼り
切っていました」と嶋田氏。今回発注に至っ
た理由の1つに、「多くの会社がある中で、
少しでも自分と繋がっていると依頼
できれば」という思いがあったそう。同窓

生だから気兼ねなく聞けることも多く、ヤ
り取りはスムーズに進んだという。「ビジ
ネスという1つの軸があつて、同じ大学の
しかも期をまたいだメンバーと交流できる
この企画は画期的だと思います。異業種交
流会に参加するにはハードルが高くて、も
ビジネス交流会なら《同窓》という1つの
共通項があるので参加しやすいのでは」と
嶋田氏。参加者の中では若手だった後藤氏
は、「交流会参加者は決定権を持つている
立場の方も多いため、仕事に繋がる可能性
は高いと思います。若手のOB・OGもぜ
ひ気軽に参加して欲しいですね」と話す。

後藤氏は、他の同窓会メンバーからも印
刷物を依頼されている。依頼したのは、同
じくビジネス交流会で知り合ったカメラマ
ンの高橋大樹氏（第10期卒業生／経済学科）
だ。幼稚園や保育園の行事撮影を手掛ける
株式会社フリーズに所属する高橋氏は、写
真の台紙作成を発注した。高橋氏も嶋田氏
と同じく「同窓生だったので色々頼みやす
く、構えずにお願いできました」と話す。
これこそビジネス交流会が目指すひとつの
側面だ。さまざまな可能性を秘めたビジネ
ス交流会は、今後も続いていく。

後藤 学 (ごとう・まなぶ)

株式会社 千葉印刷
第18期卒業生 日本語学科

嶋田きよの (しまだ・きよの)

ユニンターネットラボ株式会社 代表取締役
第4期卒業生 英米語学科

■次回ビジネス交流会の詳細は本冊子p12をご覧ください



CONTENTS 04 ALUMNI MEETING

同窓会パーティー

明海祭最終日にあたる11月6日、毎年恒例となった「明海大学浦安キャンパス同窓会パーティー」が今年も明海大学構内のレストラン『ニューマリズ』で開催された。パーティーには卒業生の家族も参加できるとあって、会場には子ども連れの姿が目立ち、賑やかな雰囲気の中で会が行われた。冒頭で壇上に立った平松健太郎同窓副会長は「年に1度、ぜひ大学に帰って来て欲しいという想いを込めてこのようなホームカミングデーを開催しています。働き盛りの方や子育てが大変な方、皆さんいろいろあると思いますが、今日は思う存分楽しんでいってください」と挨拶。続く佐々木康史副学長

も「小さいお子さんもたくさんいらして、元気な声を聞くと新しい力ももらいます。短い時間ですが、教職員と共に楽しめよう」と呼びかけた。この日の参加者は総勢約300人。会場には学部ごとに歓談用のテーブルが設けられ、各学部の教職員も駆けつけた。毎年欠かさず参加しているというOBは、「なかなかみんなで集まる機会がないので、こうした会を開催していただけるのは嬉しい」と話し、別のOBは「家族も参加できる和気あいあいとした雰囲気が良い」と満足げな様子を見せていた。また、今年は特別企画としてLINE抽選会を実施。LINE同窓会公式ページを友達追加し、

同窓会とつながると、抽選で豪華景品を獲得できるという企画に会場の盛り上がりはピークに。近況報告や思い出話に花を咲かせたパーティーは2時間ほどでお開きとなり、参加者は名残惜しそうに会場を後にした。

出席者

- 【副学長】 佐々木康史・高野敬三
- 【外国語学部】 佐々木文彦・柳澤好昭・遊佐昇原和也・田鍋桂子・西川寛之
- 【経済学部】 下田直樹・廣部恒忠・中澤栄一・吉田敦
- 【不動産学部】 中城康彦・斎藤千尋・宅間文夫
- 【HT学部】 草野健・中井延美
- 【複言語・複文化教育センター】 山岸宏明
- 【事務部】 竹部正樹・鈴木洋州

CONTENTS 05 MESSAGE

恩師からのたより



不動産学部教授 前川俊一

日本で唯一、不動産学部を設置する
明海大学に胸を張ろう！

明海大学不動産学部が創設された1992年4月に赴任し、来年3月末に定年となる。25年間明海大学に勤めたことになる。初年度から赴任した先生方で現在残っているのは杉浦雄策教授と私の2人になってしまった。

明海大学に赴任するまで、民間の研究機関（財）日本不動産研究所研究部に14年間勤めていたので初めての大学勤務であった。不動産学部も日本で初めてであり、学生も1年生だけなので高校を卒業して大学で初めて学ぶ学生しかない。初めてだらけの船出であった。まだ、第2管理・研究棟が完成していなかったので不動産学部の教員は管理・研究棟の3階のゼミ室を4人一部屋で使っていた。そのため、教員間の繋がりは強かったように思う。

不動産学部が開設された1992年と言えば、まさに時代が変わろうとした時期である。日本は1980年代後半の異常なバブルが終わり、長い低迷期に入ろうとしていた。当時の週刊誌（週刊

朝日）は「バブルが崩壊して不動産学部を創設した明海大学の不明解」といった記事を載せた。我々には笑えないジョークであった。しかし、この時期であるからこそ不動産学部が必要であるといった自負を持っていた。1980年代まで土地価格は上昇し

続けるという「土地神話」があり、不動産投資に緻密な分析はいらなかった。優良な不動産を早く取得することが重要であった。バブル期の企業の株価も、その企業がどの地域に不動産を持っているかが重要な指標となっていた。不動産保有にリスクがあるとは考えていなかったのである。このような状況では、不動産の真のプロが必要でなかったのである。

1990年代に入り不動産は大きなリスクを抱える資産であることを認識せざるを得なくなった。不動産投資をするためには緻密なリスクの分析が必要となってきたのである。また、不動産市場がグローバル化してきた。このような時代だからこそ、不動産について学ぶことが必要であり、不動産学部が必要とされるのである。不動産学部を創設したことは不明解ではなく、明解なことなのである。最近、IT化が進み、AIも急激に進歩してきた。フィンテックならず不動産テックが進む予感もする。不動産のマーケットが変化してゆく中で不動産学部の力を発揮してほしい。不動産学部の卒業生は勿論、他学部の卒業生も不動産学部のある明海大学を誇りに思してほしい。

CONTENTS 06 REPORT 会計

セキュリティの関係上、ホームページには公開致しません。

卒業生同士の交流と社会貢献

代表 鮫島伸一

経済学科支部も今年でようやく6年目を迎えます。1期生の私も、社会人経験が大学卒業までの年数を超え、人生の折り返し地点を迎えております。普段、疎遠になった方々と久しぶりにお会いすると、若かりし頃の懐かしい日々が蘇ります。同窓会という組織は、さまざまな年齢の方々と安心して交流できる貴重な存在です。このコミュニケーションから生まれるものを大事にして、豊かな社会の創造に寄与することが私の願いです。活動の詳細は別紙をご参照下さい。これからも留まることなく同窓生同士の絆を深め、価値あることを創造するために、役員一同努力して参ります！今後の経済支部活動にご期待下さい。

緑風会（不動産学部支部）

創立20周年を迎えました

代表 小畑昌也

1996年、学部第1期卒業生310人で発足した緑風会は、20年の歳月を経て会員数5,232人の大人の会へと成熟してまいりました。8月6日には浦安ブライトンホテル東京ベイにおいて創立記念パーティーが開催され、多くの方々とその慶びを分かち合いました。緑風会では、会員の幅広いニーズに応えるべく、年3回のビジネス交流会をはじめ、明海祭での不動産無料相談会&学生討論会、BBQやゴルフ懇親会など、さまざまなイベントを提供しております。今年度も、2月下旬に都内で毎年恒例の異業種交流パーティー&不動産ビジネスセミナーを開催します。旧交を温め、新しい出会いに時間を投資するのも良いものです。皆さまお誘い合わせの上、お気軽にご参加下さい。1人でも多くのご参加をお待ちしております！

明翔会（ホスピタリティ・ツーリズム学部支部）

新役員と共に新しい明翔会を目指して

代表 山下純八

昨年でホスピタリティ・ツーリズム学部は10周年を迎えました。これまで明翔会は1期生を中心に活動してまいりましたが、新しい風を取り込み、明翔会の活発化・発展につなげるため、新たな役員の選出に力を入れてきました。毎年行っている同窓会パーティーにおいても、新しいアイデアによって昨年の開催は100人を超える来場者となり、今後も新しい役員により従来になかった発想や活動につなげていければと思います。

今年度も新役員を迎え、同窓会パーティーを企画しています。同窓生の皆さまにおかれましてはご多用のことと存じますが、年に一度の開催となりますので、ふるってご参加いただければ幸いです。

支部レポート

日本語学科支部

日本語学科支部役員を募集しています！

代表 平山悦子

皆さまは、当大学の日本語学科を卒業されていれば、日本語教師(※)として働く資格をお持ちだということをご存知でしょうか。日本語教師とは、日本語を母語としない人に対して日本語を教える教師のことですが、これまで度々先生方より同窓生へのオファーがありつつも、ご希望の方が分からずご紹介できずにおりました。これを機に、日本語教師の職にご興味を持たれた方は、当支部までご連絡下さい。現職の日本語教師を呼んで勉強会を開く等、同窓生の皆さまに向けた支部活動の一環としてのイベントを考えております。また、同窓会パーティーやイベントの立案・実施など、日本語学科支部の役員活動にご興味をお持ち下さった方も、ぜひこちらのアドレスまでご一報下さい。
nihongo.meikai@gmail.com

※日本語教師は、中学校や高校の国語教員とは異なります。

明英（英米語学部支部）

学び続ける、温かみのある同窓会へ

代表 川部 翔

明英では、2つのことを大切に活動を行っております。1つ目は、会員の皆さまの学びにつながる活動を行うということです。去る7月10日に行ったパーティーでは、講演会を実施し、元明海大学教授の渡辺雅仁先生より「発信が変える英語教育」というテーマでご講演いただきました。久しぶりの英語の授業でしたが、皆さん集中して聞いていらっしゃる様子が印象的でした。もう1つは、心が和む、温かい雰囲気味わっていただけるような活動を行うということです。皆さんにはクリスマスカードやニュースレターを毎年お送りしていますが、これは少しでも温かい気持ちになっていただければという思いからです。また、現役の学生とも交流する活動も行っています。引き続き、ご協力を宜しくお願いいたします。

中国語学科支部

今年度の取り組み

代表 川島信一

今年は例年通りのHSK補助、就職相談、パーティーに加え、卒業生の立場から高校生に中国語学科を薦めるため、オープンキャンパスと都立高等学校との中国語教育に関する意見交換会に同窓会役員を派遣し、1人でも多くの方に興味・関心を持ってもらえるよう、支部としても支援をいたしました。今後も入り口から出口までを広範囲に支援できるよう、組織の充実を図りたいと考えています。今年度のパーティーは2月4日に開催します。詳細についてはハガキにてご案内いたします。

REPORT

明海祭団体表彰

明海祭期間中に展示発表を行った団体の中から優秀団体を決める「明海祭団体表彰式」が、明海祭最終日に行われた。今年は写真サークルのMemoriesが最優秀賞を受賞。写真にキャプションを添えてより作品らしくしたり、L判サイズの写真を集めてアルバ

ムを作るなど、展示方法に工夫を凝らした。代表の渡邊雅義さん（経済学科2年）は「今年は質にこだわって展示を行ったので、それが評価されたのであれば嬉しいです」とコメント。続く優秀賞には、小原流生け花サークルが選ばれた。部長のレーファミンゴクヴァーさん（HT学科4年）は「部員は外国人が多く、みんな最初はセンスに自信がないまま生け花を始めました。ですから、このような賞をいただけたのは励みになります」と話した。さらに同窓会賞には茶道部が選出。恒例だった室内展示から、屋外の茶道体験に切り替え

たことが評価されての受賞となった。部長の吉井千晴さん（HT学科4年）は「来年も型にはまらない展示を行い、茶道をより多くの人に広めたい」と抱負を語った。



REPORT

2016年度代議員会

5月21日、浦安キャンパスにおいて、2016年度同窓会代議員会が開催され、代議員42人と教職員15人が出席した。まず始めに、北原淳同窓会会長と安井利一学長が挨拶。その後、同窓会の事業報告や決算報告、新役員の選出、新年度事業計画、予算案などが審議、承認された。



2016年度の会長には、北原会長が満場一致で再任され、引き続き同窓会の舵取りを行うことになった。また、今年度の事業に加え、来年度の同窓会25周年に向けて役員一丸となり、事業を進めていくことを確認した。

TOPICS

コミュニティサポート事業
【明海大学OB BBQ同好会】

2016/04/29 ■浦安市総合公園

4月29日、浦安市総合公園において、明海大学OBのBBQ同好会による「俺たちの肉…29…の日」バーベキューを開催しました。今年はいつものメンバーに新しい仲間も増え、そしていつの間にか子どもの数も増え、楽しい会となりました。また、この場は、普段なかなか会えなくなってしまった仲間同士の近況報告会にもなっています。昨年、初めて同窓会のコミュニティサポート事業を利用させていただき、今年も引き続き利用させていただきました。私たちのように、OBで集まって楽しい会をされている方が沢山いるのではないのでしょうか。まだこの事業を知らない方、絶対に利用した方がいいですよ。



TOPICS

コミュニティサポート事業
【クッチャOBOG会】

2016/7/10

そなエリア東京バーベキューガーデン



サークル「クッチャ」の同窓会という名目で、そなエリア東京バーベキューガーデンにてBBQを開催しました。幹事の私は準備や段取りであり話す時間が取れませんでした。みんな楽しくワイワイ飲んで食べ、久々の再会を楽しみました。中には10年以上ぶりに再会した人たちもいましたが、大学時代と変わらず、気軽に話せる嬉しい関係がそこにはありました。仕事や子育て、将来について各々が語り合った貴重なひととき。また機会があれば、ぜひ開催したいと思います。

TOPICS

コミュニティサポート事業
【マリーンズOG会(チアリーディング)】

2016/05/21 ■ウメ子の家

毎年恒例となりました、チアリーディング部のOG会を行いました。今年初めての夕

方開催。子どもの運動会や仕事の後に駆けつけたメンバーもいました。近況報告を聞く限りでは、皆、学生時代のチアへの情熱は今も変わらず、それぞれが活動の幅を広げ、さらにアクティブに活動しているようです。また、子育てをしながら子どもたちにチアダンスの指導をしたり、チアリーディングスクールを立ち上げたり、OLをしながら社会人チームでチアを続け、中にはプロチアとして活躍しているメンバーもいました。チア以外では、

半年間の短期留学、仕事、子育てや主婦業、現役時代と変わらないバイタリティーに皆溢れていました。開催日当日が誕生日だったメンバーを皆でお祝いし、年に一度の集まりに情報交換や親睦を深めることができました。



TOPICS

コミュニティサポート事業

【明海大学ウィナーズ(ソフトボール)】

2016/04/03～5/15
浦安市今川球技場

2部リーグで参加の春季市民大会、初戦は0-16の冷徹負け。第2戦は3回コールドの16-1で大勝。第3戦、5回表9-0の冷徹勝ち。第3戦終了

後には、学生時代スコアラーをしていた仲間も駆けつけ、旧交を温めました。第4戦、初戦で敗れた相手と再戦。初戦と違い、ほぼベストメンバーで臨んだことから楽勝かと思われましたが、初回にHRで先制するも小刻みにしか得点を奪えず、3回まで3-2の接戦に。4回、相手のエラーにより2点を奪い、6回には3ランにより終わってみれば12-2で快勝。3位決定戦はドンキーズ。2回、相手投手が押し出し四球を連発。とどめに満塁HRも飛び出し、一挙12点を奪取。4回コールドの12-1で勝利しました。



メンバーからは、1部リーグで2回負けて終わりより、2部リーグで5試合できて楽しかったという意見も挙がっていました。秋も2部残留です。

CLUB

サッカー部

現在サッカー部は、TOPチーム、Aチーム、Bチームの3チームに分かれて活動しています。TOPチームは千葉県大学サッカーリーグに所属し、AチームとBチームはそれぞれインディペンデンスリーグ(Iリーグ)に所属して、週末の公式戦に向けて活動しています。AチームとBチームは技術レベル・学年・ポジションを均等に分けており、どちらのチームが上といったことはなく、それぞれのチームで活躍した選手がTOPチームに昇格するといった形で活動しています。今年の夏季合宿は、スタッフからの提案でそ

れぞれのチームごとに活動してみようということになりました。A・Bチームはそれぞれ茨城県内で行われた2つの大会(フェスティバル)に参加し、TOPチームは栃木県那須塩原市まで3泊4日の強化合宿に行ってきました。私はTOPチームの合宿に帯同したのですが、千葉では連日猛暑だったにもかかわらず、避暑地ならではの気候にも助けられ、学生たち



は充実した合宿を行うことができたようです。ただ一点、選手たちが最も悩まされたのは虫でした。都会の生活に慣れた学生たちは、木々に囲まれた旅館に宿泊した際、あちこちから飛んでくる虫たちに悪戦苦闘。暑いからと窓を全開にした途端、部屋の明かりを目がけて飛んでくる虫たちにはさすがに慣れていなかったようで、虫が苦手な学生が想像以上に多かったことには驚かされました。年々、空き地や公園が少なくなってきたこと、子供のころに自然や昆虫と接する機会が少なくなってきたことが原因の1つだと思いますが、このあたりでも、私たちの世代とのジェネレーションギャップを改めて感じさせられました。学生たちが、いろいろな意味でたくましくなってくれた合宿になったと思っています。

(監督 八津川義廣)

CLUB

テニス部

今年度活動報告について

今年度は、昨年度からの3人の部員に加え、テニス経験者の1年生2人の入部があり、昨年度に比べると格段にレベルが上がった状態で今シーズンをスタートすることができました。通常の学内での部活動に加え、学習院大学・文教大学・聖心女子大学との練習試合、また、千葉県白子町での合宿等で経験を積み、平成28年度関東学生テニスリーグ戦(5部)に臨みました。

リーグ戦予選では関東学院大学と茨城大学を下し、本戦進出。本戦1回戦

では一橋大学を倒して勝ち上がったものの、2回戦で横浜国立大学に惜敗し、今年度のリーグ戦本戦を終えました。ただ、残りの順位決定戦では、東京学芸大学と千葉大学に勝利し、総合5位という成績で終えることができました。リーグ戦にはOB・OGの方々をはじめ、ご父兄の皆さまや男子部員たちも応援に駆けつけていただき、誠にありがとうございました。部員たちは本当に力を出し尽くして戦ったと思います。今年度のリーグ戦では、部員たちはたった5人で戦う厳しさを実感したでしょう。特に東京学芸大学との1戦はリーグ戦での戦い方の洗礼を受け、いろいろな意味で良い経験になったと思います。

すでに4年生が引退となり、2年生2人、1年生2人、計4人での新しい

体制で練習がスタートしております。今年度のリーグ戦での経験を糧に、部員各自が目標を持って来年度に向けて練習に励んでいます。来年春には、新たに2人の部員が入学する予定です。さらに戦力が加入する来年度こそは、関東学生テニスリーグ4部昇格を目指し、頑張っていきたいと思っています。

(監督 畠中君代)



TOPICS

サマーキャンプ

在学生・教職員合同で活発な議論

9月13日と14日の2日間、千葉県鴨川市で浦安キャンパス学友会サマーキャンプが実施された。これは日本人学生、外国人留学生、教職員らが意見交換を通じて交流を深めるとともに、明海大学をより良い大学に発展させることを目的に毎年実施されているもので、学生・教職員ら約200人が参加した。今年は「挑戦と成長」をメインテー

マに、1日目に分科会、2日目に報告会が行われた。

分科会では、「明海大学の新しい魅力を発見する」「教員と学生の交流を深めるには」「課外活動の活性化に向けて」「学部間の交流を深めるには」の4つのテーマを設定して、少人数のグループに分かれて意見交換が行われた。どのグループも初めこそ緊張した様子が見られたものの、次第に打ち解け活発な議論が交わされた。2日目の報告会ではテーマごとに発表がなされ、明海大学をさらに発展させるためには、充実したカリキュラムや施設・設備など大学の魅力を再認識し活用すること、学生主体のコミュニティをつくり課外活動を強化することが

重要であるという意見が多く挙がった。

参加した学生からは、「普段交流の少ない外国人留学生や他学科の学生と新たな繋がりを持つことができた」「自分の意見を伝える貴重な機会だった」「有意義な意見交換の場となった」といった感想が聞かれ、どの学生も充実した2日間を過ごした様子が窺えた。



CLUB

ヨット部

2016年度の大会は春季関東学生ヨット選手権及び春季関東女子学生ヨット選手権大会で開幕、4年間強化してきた成果が問われる大会となりました。

予選ブロック1位通過、決勝で強豪早稲田大学を破り3位に。女子は470級優勝・スナイブ級5位で惜しくも総合優勝はできなかったものの、総合3位となりました。

5月には、国内女子470級で2位、ジュニアで1位となり、ドイツのキールヨットクラブで開催されたジュニアワールド日本代表選手として林優季（経済学科4年）・木村沙耶佳（経済学科4年）ペアが出場。昨年のギリシャ大会での成績を上

回る14位の成績を取めました。7月の関東予選ではスナイブ級1位と同率タイ2位の杉浦良介（経済学科4年）・古坂信悟（英米語学科4年）ペア、更に470級で林・木村ペア（経済学科4年）が8位通過。太田貴弘（経済学科4年）・又村優（日本語学科3年）ペア、花井静亜（経済学科1年）・鈴木真人（不動産学科1年）ペアも健闘して上位通過。スナイブ級では柴沼拓也（経済学科4年）・天野大志（経済学科4年）ペアも予選突破し、9月に兵庫県西宮市で開催された全日本学生ヨット個人選手権大会に出場。その結果、柴沼・天野ペアは72艇参加した中で全国4位の成績を取め、470級では、林・木村ペアが72艇中8位の成績を挙げることができました。

10月に行われた大会「江ノ島オリンピックウィーク」は、2020東京オリンピック・ナショナルチーム選考レースを兼ね、海外から17か国が参加する中、本



学の林・木村ペアがイギリス、中国に次いで国内トップに入り、東京オリンピック代表候補への期待が大きく膨らんでいます。また、11月2日から6日にかけて、愛知県蒲郡市で開催された第81回全日本学生ヨット選手権大会には7年連続で出場。強風吹き荒れるコンディションの中、470級6位・スナイブ級8位・総合6位入賞を果たしました。

残すは、全日本470級選手権大会のみとなりました。本年も、同窓会の皆さまには変わらぬ多大なご支援を戴き、感謝する次第であります。

（監督 國府田由隆）

CLUB

空手道部

空手道部は、同窓会の皆さまをはじめ、教育後援会及び大学のご支援のおかげで体育会に所属し、9年目を迎えることとなりました。

本年度は男子主将の高山明人（経済学科4年）、女子主将の皆川絢佳（経済学科4年）を中心とし、昨年度の成績を1つでも上回ることを目指し総勢34人(男子部員

25人・女子部員9人)、精神面・技術面等の強化を図り日夜稽古に励んで来ました。

今年度の主な成績としては、第53回東日本大学空手道選手権大会男子団体組手において2013年以来、3年ぶりに男子団体組手第3位入賞を達成することができました。しかし、関東及び全日本大会につきましては、昨年度の結果を上回ることができず大変悔しい思いをいたしました。

次年度に向け新チーム体制となり、より一層チーム力の向上と精神面・体力面、技術面等を強化し、個人戦・団体戦ともに

今まで以上に良い成績を残せるよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（コーチ 上田 航）



INFORMATION

■ ビジネス交流会開催予定

同窓生の輪を人的資源として有効に活用・共有することで、ビジネスにおける問題解決や自己の向上を目的とした実践的交流会です。同窓生皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

ビジネス交流会

日時：2017年3月上旬頃を予定

(※詳細は同窓会Facebookならび@LINEにて追って告知致しますのでご確認ください)

場所：渋谷 参加費：¥2,000円 *学生無料

対象：会社経営者、個人事業主及び起業を目指している同窓生。

同窓生同士のビジネス的な繋がりを求めている方。

就活の為のスキルアップを目指す学生。

■お申込み方法

表題に「ビジネス交流会参加希望」と記し、「氏名」「学籍番号」「携帯番号」「業種・会社名」を明記し、info@meikai.com までお申込みください。

*日時、場所の詳細は、明海大学浦安キャンパス同窓会HPやビジネス交流会FBでご確認ください。

詳細・最新情報はこちらから

明海大学浦安キャンパス ビジネス交流会 公式Facebook

<https://www.facebook.com/Meikai.dosokai.Business>



■ 同窓会公式 LINE@ アカウント開設記念キャンペーン ～ホームカミング明海大@ LINE～

同窓会の公式@LINEアカウント開設を記念して、同窓生の皆さまを対象とした登録キャンペーンを実施中です。

登録してメッセージを送っていただくと、抽選で下記の商品が当たっちゃいます！結構高確率だと思いませんか？同窓会LINEではゆる～いスタイルで、同窓生へのお得な情報、大学近況を月イチ（くらい）配信します。

- ◎ iPad mini2 ×1名様
- ◎ ディズニー 1DAYパスポート（ペア）×2名様
- ◎ クオカード（2,000円分）×20名様

■登録/応募方法

①スマホ、タブレット、PCなどからLINEを開き「@meikai_dosokai」でID検索して「追加」します（表紙のQRコードをLINEアプリから読み込んでOK！）

②在学中の「学籍番号」をメッセージでお送りください（※会報をお届けした封筒の住所ラベルに記載されている数字が学籍番号です）

■応募締め切り

2月14日まで

■当選者の発表について

当選の発表もLINEでお知らせします



■ 同窓会の「コミュニティサポート事業」同窓生の集まりに最大6万円の支援

サポート条件

- ①原則として会員が10人以上で集まるコミュニティであること。
*支援対象者は会員のみ。
- ②パーティーや活動終了後、レポートと参加者名簿を提出すること。
*レポート・名簿ともに既定のフォーマットに記入。
*レポートは、HPや会報に掲載させていただく可能性があります。
*参加者名簿は、本会のプライバシーポリシーに準じて活用いたします。
- ③宗教や政治活動を目的とするコミュニティは対象外。
- ④支援は年度内1回のみ。（同じ人が年2回受けることはできません）

■支援金

3,000円/人 *上限60,000円（20人相当）

例）参加者15人→45,000円支援 参加者25人→60,000円支援

■利用の流れ

- ①申込…同窓会ホームページの記載に従い、事務局へ申し込み
- ②承認…理事会の承認を受ける
- ③支援確定…内容に問題がない場合、「支援確定」をメールにて連絡
- ④実施…代表者が参加者の現住所を確認、レポート作成
- ⑤提出…実施後2週間以内にレポートと参加者名簿を事務局へ郵送
- ⑥支払い…代表者へ振込

EDITORIAL NOTE

編集後記

今号の巻頭は、体育会ヨット部の特集を掲載しました。2006年から國府田由隆監督が指導して以来、着実なレベルアップを経て、現在では全国レベルの存在となっています。全日本大学ヨット選手権大会では、総合優勝が狙えるチームとして大会に臨みましたが、結果は470級が6位、スナイプ級が8位、総合得点で6位入賞となりました。総合優勝は逃したものの、一つひとつ課題をクリアし次年度は悲願の総合優勝を果たしていただきたいと願います。

また、10月後半には、東京オリンピック・ナショナルチーム選考レースを兼ねる江の島オリンピックウィークで、林優季（経済学科4年）・木村沙耶佳（経済学科4年）ペアがイギリス、中国に次いで国内トップとなり、東京オリンピック代表候補選出への期待も大きく膨らみます。

2020年、明海大学がオリンピックにどのような形で関わることになるか、同窓生の皆さまもこれから注目していただければと思います。

体育会には、他にサッカー部、空手道部、女子硬式庭球部があり、それぞれ日々、厳しい練習を積み実力強化を図っております。是非、皆さまにも応援していただけると存じます。各部の詳細や試合結果など、本学ホームページの体育会サイトにアップしておりますので、是非、閲覧してみてください。

最後に、この会報を多数の同窓生の皆さまに読んでいただき、感想などがありましたら、是非、同窓会事務局にご連絡いただければ幸いです。

（広報担当：磯見隆行）



本学体育会ホームページ
<http://meikai-sports.jp>